

D 69 背広のVゾーンに対する嗜好性の評価要因
文化女大家政 ○筋野淑子 大井久美子 香川幸子
共立女大家政 小林茂雄

目的 社会構造の変革に伴い、ライフスタイルが著しく変化し、近年男性ファッションにも関心が高まり、多様化の現象が進んでいる。そこで男性ファッションの象徴といえる背広とネクタイのVゾーンに対するイメージと嗜好性について、アンケート調査を実施し評価要因の因果関係の分析を試みた。

方法 調査は1991年10月から12月にかけて留置法によるアンケート調査を実施した。被験者の有効回答者数は大学生(男女)196名、中高年(男女)300名、合計496名である。調査に用いたVゾーンの写真は20代の男性サラリーマン3名をモデルとして、背広は基本の濃紺に統一し、9種類のネクタイを各モデルに着用させ、モデル別に9枚の写真を1セットとして調査に用いた。すなわち各写真の背広のVゾーンに対して、嗜好性に関する18の質問項目を設定し、5段階の片側尺度により評価させた。解析は18個の質問項目を変数にサンプル(基本属性別被験者×モデル写真)108個を観測回数として因子分析を行い、基本的因子を抽出し、さらに因子得点をもとに、背広のVゾーンに対する各モデル、被験者の男女・年代の各要因との関連について検討した。

結果 モデル写真に対する嗜好性の評価データについて因子分析(固有値1.0以上、バリマックス回転)を行った結果、3個の基本的因子が抽出された(累積因子寄与率87.3%)。次に各基本的因子に対する写真サンプルのモデルの差、被験者の大学生と中高年の各々の男女差と年齢差について因子得点を基に考察した結果、ネクタイの種類によってモデル、男女、年齢の差が異なることなどの特徴を見出した。